

## 【7 浸出水の処理方法】

- ごみに触れた雨は専用の集排水管により、廃棄物の埋立区域から速やかに浸出水調整池に集水し、処理能力を超えた浸出水を一時的に貯留し、浸出水処理施設に送水します。

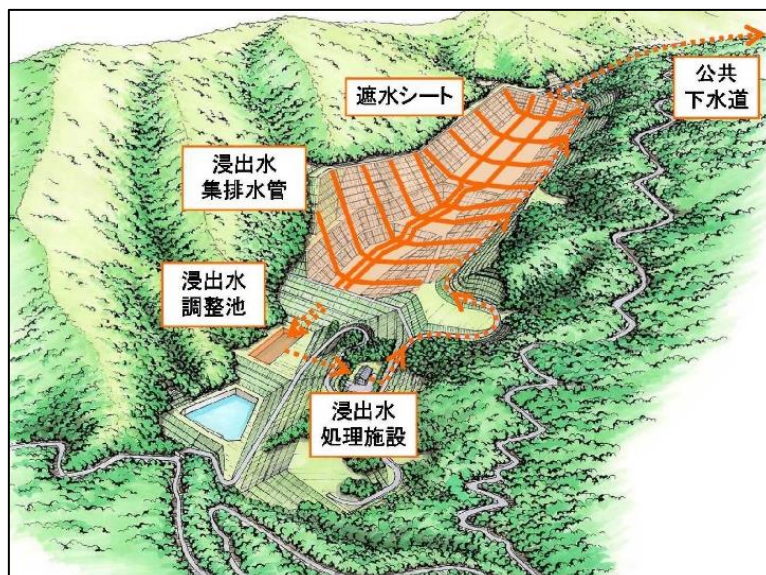


図-1 浸出水の処理方法イメージ

- その浸出水放流施設で、公共水域へ放流可能な水質まで浄化した後、専用の放流管により安佐北区安佐町久地幸神の公共下水道幹線に接続し放流します。

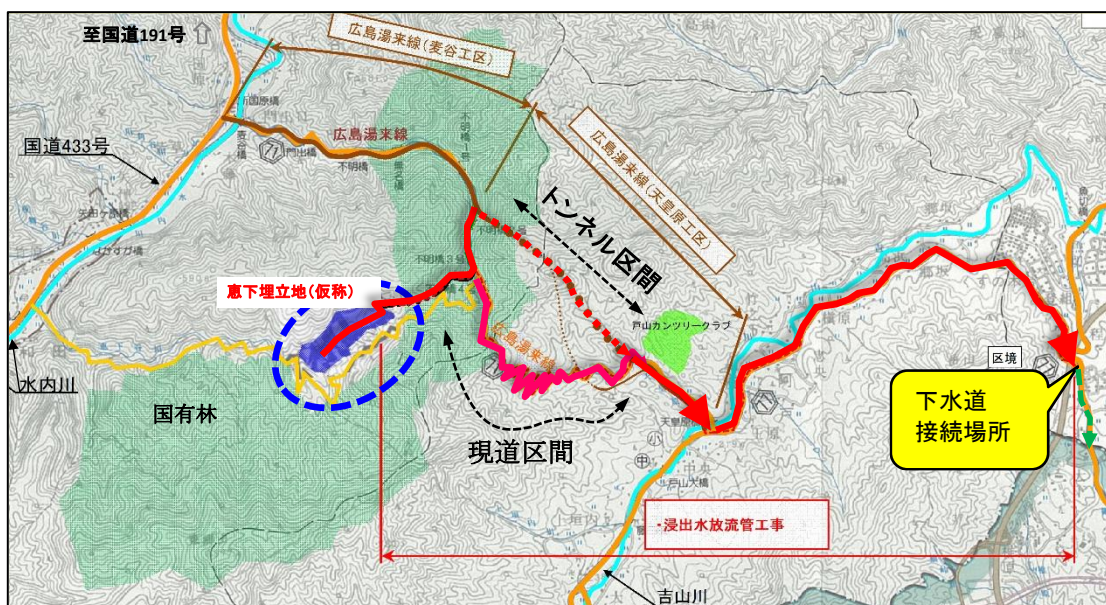


図-2 浸出水放流管敷設ルート

- 浸出水放流管については、広島湯来線のトンネル建設が、埋立地の供用に間に合わない見通しとなったため、先行して広島湯来線の現道に敷設します（圧送施設等も併せて建設します）。

また、トンネル完成後は、トンネル内にも浸出水放流管を敷設し、現道に敷設した管は維持管理時等の予備管として活用します。

- 浸出水（処理水）の放流方法は、公共下水道で一般的に採用されている、道路勾配に合わせて、自然流下方式とポンプ圧送方式を組み合わせたものとしています。（図-3 参照）

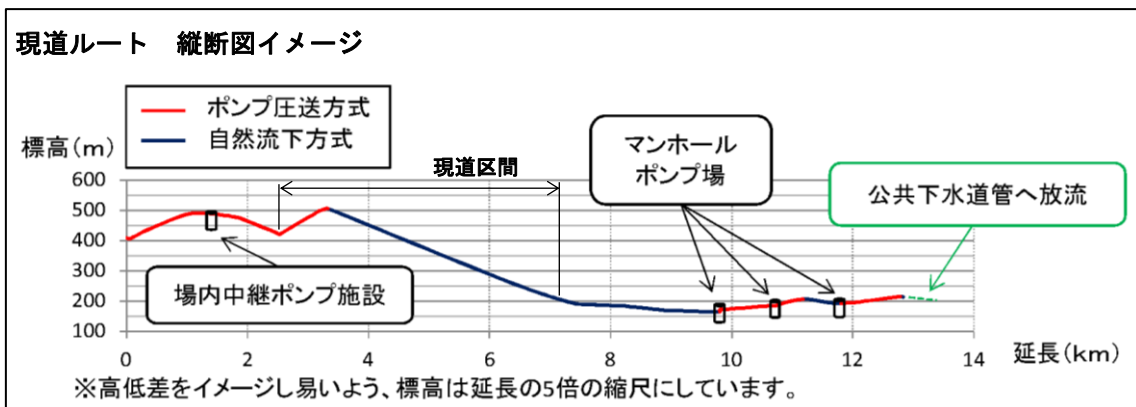
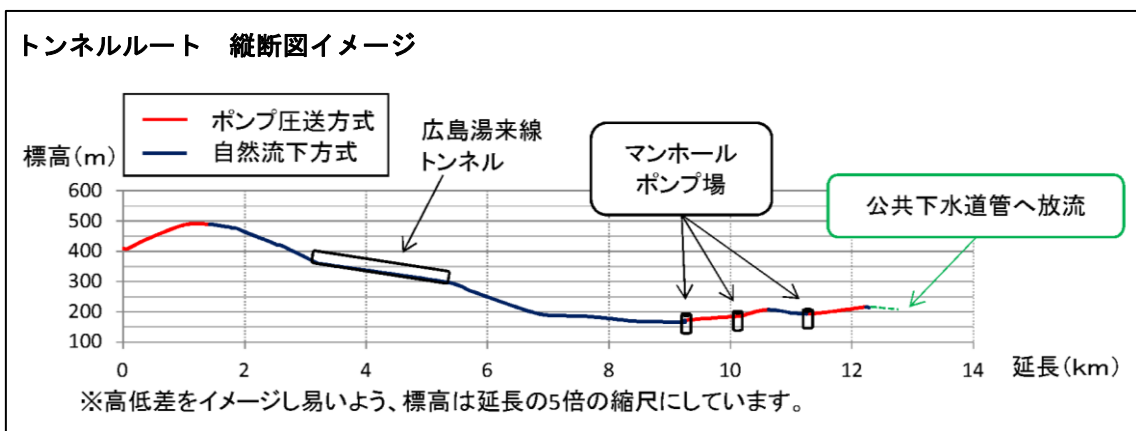


図-3 浸出水放流管の縦断図イメージ

〈実際の管の勾配について〉

図-3は高さと同長の比率を変えていることから、若干勾配が急に見えますが、実際はトンネルルートで約8%、現道ルートでも約11%以下（主要地方道広島湯来線内）です。

8%とは：100m進んで8m下がる割合で、角度で示せば4.6°となります。

- 浸出水放流管の施設概要は以下のとおりです。
  - ・ 延長（トンネルルート）：ポンプ圧送方式の区間 約 3.8 km  
自然流下方式の区間 約 8.7 km
  - ・ 管径（内径）：ポンプ圧送方式の区間 内径 150mm  
自然流下方式の区間 内径 200mm（一部 600mm ほか）
  - ・ 管材：開削工法の区間 ポリエチレン管  
小口径推進工法の区間 鋼管の中に塩ビ管を挿入した二重管方式
  - ・ マンホールポンプ台数：埋立地の場外に 3 か所（主要地方道久地伏谷線内）
  
- 浸出水放流管の安全対策として、次の対策を実施します。
  - ① ポンプ圧送区間の放流管は維持管理がし易いよう 2 系統で整備します。
  - ② 停電時にも安全な放流を継続できるよう、自家発電設備を整備します。
  - ③ 場内の圧送ポンプを含め、すべての圧送ポンプを連携させ、1 か所でも異常が確認されれば、放流を停止します。
  - ④ マンホールと管の接続部に、ポリエチレン管用に強化したゴム製の可とう継手を設置し、ここからの漏水を防止します。